

科目名 Course Name	介護の基本Ⅱ Fundamentals of care Ⅱ			ナンバリング No.	J2-004		
年次	1年	期別	後期	単位数	2	授業形態	講義
担当者氏名	片桐 幸司						
連絡方法	C-Learning に対応。						
必修/選択	選択(介護福祉士養成課程必修)						
関連 DP	DP1, DP2, DP4						
授業の概要と到達目標	<p>「介護の質」を向上させるためには「尊厳を支える介護」や「自立支援に向けた介護」が不可欠であり、介護実践の場で展開されなければならない。それが介護の基本的要件とも言える。本授業では、「介護」と「利用者の尊厳」などについて考え、利用者の立場で考える姿勢を身につける。</p> <p>①QOL の意味を理解し、その人らしい生活を支援することの重要性を説明できるようにする。</p> <p>②介護福祉の職業倫理を自身の言葉で述べられるようにする。</p> <p>④自立(自律)の概念と自立支援に必要な視点を挙げられるようにする。</p> <p>⑤自立に向けた介護の視点から、「ICF」「ストレングス視点」について概説できるようにする。</p>						
授業の方法	講義の他、事例検討、グループワーク、ディスカッション、視聴覚教材の視聴等を取り入れ、意見交換や発表を通して自己の考えを深める。						
学習成果	L01						
	L02	利用者を生活の主体者として捉え、「尊厳の保持」「自立支援」の観点から、人権やプライバシーに配慮した利用者主体の介護を実践することができる。					
	L03						
	L04						
課題に対するフィードバック	事例検討やグループワークの発表後は、教員が講評しフィードバックする。						
教科書/参考図書	最新・介護福祉士養成講座 第3巻「介護の基本Ⅰ」 中央法規出版 その他、必要に応じて資料を配布する。						
履修上の留意点やルール等	<p>●目的意識をもって授業に取り組み、グループワークでは積極的に意見交換して欲しい。●飲食物や携帯電話等、教材以外のものは机上に置かない。●やむを得ず欠席した場合は、速やかに届け出を提出すること。●事前・事後学習に費やすべき時間の目安は各回 180 分とする。</p>						
担当教員の実務経験	<p>実務経験(職種:障害者支援施設生活支援員(身体・知的) 職歴:6年)</p> <p>実務経験(職種:特別養護老人ホーム介護職員 職歴10年)</p> <p>実務経験(職種:特別養護老人ホーム施設長 職歴7年)</p>						

成績評価の方法と基準					
評価の領域	評価基準	学習成果の割合			
		L01	L02	L03	L04
授業参加態度	S評価は、①使用教材を準備している。②授業に集中し、必要なことはノートにとっている。③課題の提出期限を守っている。④グループワーク時は他学生の意見を聞いた上で、自分の考えを述べている。		20		
レポート/作品	S評価のレポートは、課題のテーマに沿って学びや気づきが具体的に記述されていること。自分の考えがまとめられていること。		20		
発表					
小テスト					
試験	「尊厳を支える介護」と「自立に向けた介護」について、法律や言葉の意味、介護のあり方等を出題する。		60		
その他					
合 計			100		

回数		授業計画
1	授業内容	ガイダンス(授業のねらいと進め方・成績評価の方法・欠席時の対応など) 介護の特性と対象者支援の基本的理念について 職業倫理について概説
	事前・事後学習	介護福祉を1年間学んだのちの自身の介護のイメージを箇条書きにしておく。
2	授業内容	介護福祉士の倫理① 倫理とは何か、さらに介護実践における倫理とは何かを知る。 社会的事例にみる倫理規定違反を概観する。
	事前・事後学習	倫理に関する配布資料を熟読し、自身の持つ「倫理観」をノートにまとめておく。
3	授業内容	介護福祉士の倫理② 事例を通じて倫理的対応が必要な場面を考察する。 テキスト事例を参考にしてグループワークを通じて自身の見解をレポートにまとめる。
	事前・事後学習	テキスト p130～p135 の事例を読み、倫理的対応の概要を確認しておく。
4	授業内容	介護福祉士の倫理④ 介護福祉士に求められる職業倫理 介護福祉士の職業倫理にまつわる法令、身体拘束禁止、虐待防止などを学ぶ。
	事前・事後学習	テキスト p136～p148 を読み、介護福祉士に求められる職業倫理を概観しておく。 次回の身体拘束体験に向けて、「身体拘束」の意味を考えておく。
5	授業内容	介護福祉士の倫理⑤ 身体拘束と虐待について 実際に「拘束」を体験する。 身体拘束等定適正化・虐待防止マニュアルをもとにして「身体拘束」を体験し、個人ワークでレポートを作成する。【介護実習室を使用】
	事前・事後学習	介護福祉士の職業倫理とは何かをノートにまとめておく。
6	授業内容	介護福祉士の倫理⑥ レポート「介護福祉士の職業倫理」を作成【ワークシート作成】
	事前・事後学習	次回、ワークシート「介護福祉士に求められる職業倫理について」を発表するので準備しておく。
7	授業内容	介護福祉士の倫理⑦ レポート「介護福祉士の職業倫理」を発表【ワークシート作成】
	事前・事後学習	他者の発表から学んだことを含めて「介護福祉士に求められる倫理」をレポートとしてまとめる。
8	授業内容	自立に向けた介護① 介護福祉における自立支援 自立支援の考え方と利用者視点を学ぶ。
	事前・事後学習	テキスト p152～p157 を読み、自立支援の考え方をノートにまとめておく。
9	授業内容	自立に向けた介護② 意思決定支援と生活意と活動 自己決定の権利から「終活」にはどのような意味があるのかを何かを考える。 グループワーク「自己決定と終活について」【ワークシート作成】
	事前・事後学習	テキスト p157～p163 を読み、自立支援の考え方をノートにまとめておく。
10	授業内容	自立に向けた介護③ 就労支援と自立生活支援について <定期試験の説明> 「ニッポン一億総活躍プラン」などにみる高齢者の経済活動を学ぶ。
	事前・事後学習	テキスト p163～p169 を読み、高齢者への就労支援とはどのようなことか確認しておく。
11	授業内容	自立に向けた介護④ ICF(国際生活機能分類)の考え方 介護におけるICFの視点を学ぶ。
	事前・事後学習	テキスト p172～p177 を読み、「ICFの視点」を確認しておく。
12	授業内容	自立に向けた介護⑤ ICFの考え方に基づく高齢者のストレングスモデルを知る。
	事前・事後学習	テキスト p177～p178 を読み、「ストレングスモデル」とはどのようなことかを確認しておく。
13	授業内容	自立に向けた介護⑥ 介護予防の概要 その種類と展開 介護予防の概要とその展開から介護予防の目的を学ぶ。
	事前・事後学習	テキスト p198～p204 を読み、平均寿命や介護予防の目的などを確認しておく。
14	授業内容	自立に向けた介護⑦ 高齢者の身体特性と介護予防
	事前・事後学習	テキスト p204～p212 を読み、「高齢者の身体特性」を確認しておく。
15	授業内容	自立に向けた介護⑧ 介護予防における介護福祉士の役割 科目のまとめ
	事前・事後学習	テキスト p213～p214 を読み、「介護予防における介護福祉士の役割」を確認しておく。